

金沢大学薬学教育自己点検評価報告書（令和5年度）

部局名：薬学系

部局長：加藤将夫

目標・取組	目標・取組の実施状況および課題等
<p>1. 【学類入試委員会】</p> <p>① 一般選抜試験を実施し、入学定員を厳重に管理して合格者を出す。</p> <p>② 薬学類・高大院接続入試を実施し、入学定員を厳重に管理して合格者を出す。</p> <p>③ 志願者の動向を調査する。</p>	<p>① 令和6年度一般選抜合格者数は、医薬保健学域で入学定員の105%以内に収まる合格者数となり、定員管理を厳重に行った。</p> <p>② 募集人員内の合格者を出した。未充足分は一般選抜で補充した。</p> <p>③ 令和5年度入試の一般選抜および高大院接続入試の高校別志願者数を調査した。</p>
<p>2. 【高大接続委員会】</p> <p>① 対面キャンパスビジットを実施する。</p> <p>② Web キャンパスビジットを実施する。</p> <p>③ 学類パンフレットを作成する。</p> <p>④ 出張講義・学類紹介を行う。</p> <p>⑤ 高校生への進学説明会を行う。</p>	<p>① 5月21日に対面キャンパスビジットを実施した。全学の学生募集委員会主導で、開催時期が10月から5月に変更になった。</p> <p>② 8月9日、10日にWeb キャンパスビジットを実施した。非常に多くの高校生が参加し、とても盛況であった。</p> <p>③ 学類パンフレットを作成した。毎年、継続的に作成し、情報を更新していくことが課題である。</p> <p>④ 8件の出張講義・学類紹介を行った。高大院接続入試の受験生の増加をねらい、高校生や高校の進路指導教員に情報提供することが課題である。</p> <p>⑤ 本年度は依頼がなく、高校生への進学説明会は実施していない。依頼があれば、適宜、対応する。</p>
<p>3. 【学類教務・学生生活委員会】</p> <p>① 学生が身につけるべき資質・能力の評価法を策定し学生に明示し、評価結果を教育課程の編成及び実施の改善・向上に活用する方法を点検評価委員会と協同して検討する。</p> <p>② 令和6年度入学者から適用される薬学教育モデル・コアカリキュラム（令和4年度改訂版）に医療薬学委員会と協同して対応する。</p> <p>③ ラボローテーション等の科目について、実</p>	<p>① 点検評価委員会と協同し、左記の評価法として新たなルーブリックを作成した。さらに、このルーブリックや評価法等についての意見を広く教員および学生から収集するシステムを確立した。</p> <p>② 新たに組織されたコアカリ改訂ワーキンググループが中心となり、令和4年度改訂版に対応したカリキュラム・ツリーおよびマップを作成した。</p> <p>③ R3年度以降入学者に対するラボローテ</p>

<p>施方法等の見直しを行い、それに応じてルーブリックを改訂する。</p> <p>④ 2020年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が難しい状況であった短期留学プログラムの再開を検討する。</p> <p>⑤ 博士課程進学者増大のための方策を検討する。</p>	<p>ションおよび早期ラボローテーションの実施方法について、懇談会等での学生からの意見も考慮し、見直しを行った。ルーブリックの改訂は緊急性・必要性が低いことから、今後、必要に応じて改訂することとした。また、ラボローテーションと連動する研究室配属のルールについても学生からの要望も踏まえて改定を行った。</p> <p>④ 2023年5月から新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにともない、短期海外留学プログラムを再開し、7月と9月に実施した。</p> <p>⑤ キャリアパスに関わる講義中での説明および博士一貫プログラム学生による当該プログラムの紹介等を通して、進学を推奨する機会を設けた。次年度以降も引き続き検討していく必要がある。学生支援奨学金制度見直しワーキンググループが中心となり、進学を後押しする新たな奨学金制度を策定した。</p>
<p>4. 【実習委員会】</p> <p>① 学生実習の日程について、学習効果の最大化を目指した組織的・計画的な点検を施す。</p> <p>② 学生実習の内容・教材について、学習効果の最大化を目指した情報共有を行う。</p> <p>③ 実習環境を点検・評価し、必要に応じて改善する。実習全体の企画・立案、日程、教材、設備・備品などの一元的管理を行う。</p>	<p>① 講義で学んだ知識や理論を活かした実践的な実習となるよう、講義との連動性に注視した内容・日程を計画した。毎年の講義日程に応じて、継続的に調整・改善を図っていくことが課題である。</p> <p>② 各実習の教材（実習書）の共有保管スペースを確保し、実習内容の確認を可能にしたことで、実習間での内容の重複を避けられるようにした。また、段階的に高度な内容を学習できるように工夫した。継続的な実施を図ると共に、実習内容の改定に対し柔軟な対応を行っていくことが重要となる。</p> <p>② 実習内容が設備・環境に左右されぬよう、情報共有を図りながら、充実した実習設備の提供に努めた。機器の老朽化について情報共有し、必要に応じて機器類の更新を行った。実習委員長を中心に、実習全体の企画・立案、日程調整、設備・備品などの一元的管理を行い、円滑な運営に努めた。継続</p>

	的に実施することが課題である。
<p>5. 【教育方法改善委員会】</p> <p>① 教育研究活動の向上を図るための組織的な取組みを行う。</p> <p>② 新任教員を対象とした新任教員 教務関連研修会を実施する。</p>	<p>① 全教員を対象とする薬学FD研修会を実施した。今年度は「薬学類のキャリア教育を考える」と題して、新しく導入したキャリア形成科目群の背景とねらいについて、教員間の情報共有、薬学類のキャリア教育について考える機会となった。教員の能力及び資質を向上させるためにも毎年、継続的にFD研修会を実施することが課題である。</p> <p>最先端の医療実務を教授するため、医療薬学関連の講演会や学術集会へ積極的に参加し、その結果として日本薬剤師研修センター認定薬剤師、日本医療薬学会認定薬剤師認定薬剤師の資格を継続して維持している。</p> <p>② 教務全般の説明（カリキュラム、履修、成績判定、アカンサスポータルの運用、授業アンケート、アドバイザー制度等について）を実施した。教育研究の質の向上と教務内容全般の確認作業を毎年実施することが課題である。</p>
<p>6. 【点検評価委員会】</p> <p>① 薬学教育にかかる自己点検・評価を組織的・計画的に行う。</p> <p>② 授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③ 教学IRを実施する。</p> <p>④ 卒業生フォローアップ調査を行うための準備を進める。</p> <p>⑤ 薬学教育評価機構による評価受審にあたり自己点検・評価書を作成する。</p>	<p>① 各委員会からの自己点検評価報告書を取りまとめ、薬学系ウェブサイトにて公表した。毎年、継続的に実施することが課題である。</p> <p>② 授業評価アンケートを実施した。アンケートシステム変更後の、ある程度の年度分のアンケート結果が得られたら経年的分析を行うことが課題である。</p> <p>③ 今年度末までの成績データを集計して、次年度に教学IRを実施する予定である。</p> <p>④ 卒業生フォローアップ調査を行うための検討を行なった。引き続き、準備を進めることが課題である。</p> <p>⑤ 薬学教育評価機構による評価受審にあたり自己点検・評価書を作成し、提出した。</p>
<p>7. 【キャリア形成委員会】</p> <p>① キャリア形成セミナーを開催する。</p>	<p>① エントリーシート &amp; 自己PR作成講座(7月</p>

<p>② 薬学系企業等説明会を開催する。</p> <p>③ 全教員・学類生・大学院生を対象とした薬学系の交流会を開催する。</p> <p>④ 上記の各催しについて、前年度の開催状況を踏まえた開催形式・内容について吟味する。</p>	<p>と11月の2回開催)、面接・グループディスカッション対策講座(11月)、募集要項の見方講座(11月)を、またエゴグラムテスト(通年)を実施した。参加者が10名以下の回もあり、開催の必要性も含めて検討することが課題である。</p> <p>② 3月にオンラインで開催した。昨年よりさらに参加者が減少し、開催様式や時期など、学生の要望に合致する形式での開催が課題である。</p> <p>③ 交流会として「キャリア形成サロン」を再開した。感染対策を考慮し、飲食を控えた形式での開催とした。200名以上の参加者を迎え、盛況な会となった。次年度に向けてより交流が深まる形式に工夫が必要である。</p> <p>④ 実施時期や内容、回数を見直しを検討した。</p>
<p>8. 【国家試験対策委員会】</p> <p>① 薬学類6年生が薬剤師国家試験に合格するためのガイダンスや講習を企画する。</p> <p>② 薬学類6年生の薬剤師国家試験の結果を収集し、まとめる。</p>	<p>① 薬学ゼミナールによる薬剤師国家試験対策講習及び模試を企画し、学生の試験対策を行った。学年により成績分布が異なるため、それに応じたガイダンスや講習の実施が課題である。</p> <p>② 薬剤師国家試験の合格発表率を過去の結果とともにまとめ、各種委員会と共有した。また国家試験の自己採点結果をもとに、正答率が悪かった項目を大学教員による講義へフィードバックすることが課題である。</p>
<p>9. 【CBT委員会】</p> <p>① 薬学教育プログラムの共用試験(CBT体験受験・本試験)を実施する。</p> <p>② 金沢大学薬学共用試験 CBT 監督要領、薬学共用試験 CBT 体験受験・本試験受験生用マニュアルを作成する。</p>	<p>① 大きなトラブルなく薬学教育プログラムの共用試験(CBT体験受験・本試験・追試験)を実施した。昨年度は学内サーバの変更があり、セットアップが煩雑などの問題があったが、今年度は効率的に実施できた。</p> <p>② 金沢大学薬学共用試験 CBT 監督要領、薬学共用試験 CBT 体験受験・本試験受験生用マニュアルを作成した。適切に作成する</p>

<p>③ CBT 実施のためのネットワーク環境, コンピュータ端末, 中継サーバの保守を行う。</p>	<p>ことができた。毎年, 継続的に実施することが課題である。</p> <p>③ CBT 実施のためのネットワーク環境, コンピュータ端末, 中継サーバの保守を行い, 試験に備えることができた。毎年, 継続的に実施することが課題である。</p>
<p>10. 【OSCE 委員会】</p> <p>① 令和 6 年度に新カリキュラム入学者 65 名が OSCE 受験することを視野に入れ, レーン数を 2 レーンから 3 レーンに増やして計画・実施する。</p> <p>② 昨年度変更した教員の役割分担の検証を実施する。</p>	<p>① 3 レーンでの, 受験者動線・人員配置等を考慮した試験計画を立案・実施した。レーン数を増やしても問題なく実施できることが確認できた。</p> <p>② 課題によって誘導者から受験者への指示内容が異なるため, 改善の余地がある。この点について次年度, 問題無く実施できるよう検討する。その他の役割は問題無く実施できた。</p>
<p>11-1. 【医療薬学実務委員会】</p> <p>① 新カリキュラムに準拠した学内医療系実務実習体制の再構築と検証(人数増への対応)</p> <p>② 新カリキュラムに準拠した学内医療系実務実習, 演習の評価方法の改善</p> <p>③ 服薬指導支援・フォローアップシステムの充実</p>	<p>① 新カリキュラムに準拠した学内医療系実務実習体制の再構築を行ない, 現行定員で実施可能かを検討した。概ね実施可能であることを確認できたが, 一部改善の必要を認めた。</p> <p>② 新カリキュラムに準拠した学内医療系実務実習, 演習の評価方法を現行定員で実施した。評価方法については, 一部, 学生の理解不足が見られた。</p> <p>③ 服薬指導支援・フォローアップシステムの充実のため, 症例の追加, ブラッシュアップを実施した。</p>
<p>11-2. 【実務実習委員会】</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症対策の対応</p> <p>② R6 年度実務実習体制の調整</p> <p>③ R7 年度開始の新カリキュラムに準拠した</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い, 大学, 附属病院, 医薬保健研究域の指針の改訂に併せて, 順次指針を緩和するとともに季節型インフルエンザ等への対応も行い, その内容を実習施設に説明, 理解を得て実施した。</p> <p>② R6 年度実務実習体制の調整を R7 年度の実務実習体制の一部先行導入しながら, 北陸地区調整機構の下, 実施した。</p> <p>③ R7 年度開始の新カリキュラムに準拠した</p>

<p>実務実習体制の検討</p>	<p>実務実習体制について、薬学系内での基本的な検討を終えた。</p>
<p>12. 【教育・研究環境管理委員会】</p> <p>① 教育，研究活動に係る環境管理に関し基本的事項を定め，環境負荷の低減に貢献する。</p> <p>② 薬学系各研究室を定期的に巡視し，研究環境の安全項目をチェックして必要に応じて改善を促す。危機管理マニュアルの見直し，改訂の必要性を検討する。</p>	<p>① 基本的事項として，災害時の避難経路の確保，地震対策として薬品棚，ガズボンベ等の固定，有機溶媒の廃棄確認等々のチェック項目を点検・確認した。安全性、利便性および衛生面も考慮し、効果的な環境整備に努めることが課題である。</p> <p>② 各薬学系研究室を年2回巡視し，上記基本項目をチェックして改善を促した。1ヶ月後にその改善が実施されたことを確かめた。記録として巡視時と改善後の実態を写真撮影して記録に残した。年2回の巡視を継続的に実施することを目標にしている。これにより軽微な改善で対応出来ている。</p> <p>危機管理マニュアルの改善，改訂を行うことが課題である。</p>
<p>13. 【学術情報 Web 委員会】</p> <p>① 薬学系 Web サイトの情報（AP， DP， CP， 授業評価， 教員の優れた研究内容， 教員や研究室情報や入試関係）や情報公開として必要な内容の掲載および確認を実施する。</p> <p>② 薬学系 Web サイトの英語版の作成を進める。</p> <p>③ 薬学系 Web サイトを利用した薬学系および博士一貫プログラムのさらなる情報配信を行う。</p>	<p>① 情報公開として，必要な内容の確認（AP， DP， CP， 授業評価， 教員の優れた研究内容， 教員や研究室情報， 入試関係）と薬学系 Web サイトへの掲載を行った。</p> <p>② 薬学系 Web サイトの英語版の作成を進めている。</p> <p>③ 薬学系および博士一貫プログラムなどの紹介動画を作成し，薬学系 Web サイトにて情報配信を行った。</p>